

都を見て、泣く ルカ 19:41-48

24. 3. 24 庄和 NO. 721

春日部福音自由教会 山田豊

本日は棕櫚の主日、イエスが都エルサレムに入られたことを想起する日曜日です。子ロバに乗られたイエスは、大勢の人々の歓呼の声に迎えられますが、その直前、都を見たイエスは泣いた、というのです。

本日のテキスト以外に、イエスが泣かれた場面は、愛する友であるラザロが死んだという知らせを聞いた時でした。「イエスは涙を流された。」ヨハネ 11:35、とあります。また、ヘブル 5:17 には「キリストは、中略、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。」とあります。これは十字架の上で「「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた。」ことを指しています。

イエスはなぜ都エルサレムを見て、泣かれたのでしょうか？二つのことが考えられます。第1は、この都がやがて滅ぼされることを、イエスは知っていたからです。この都が蹂躪され、堅牢に見える神殿さえも粉々に加配されることになる、と告げたのです。今、地球上のあちらこちらに、泣かざるを得ないようなことが満ちていると同じではないでしょうか。

もう一つの理由は、神殿が神の祈りの家とされず、不正な商売の場所となっていたからです。神殿に詣でるには、ささげ物である動物やそのための貨幣を用意しなくてはなりません。ですから、そのための便宜を図る人たちがいたのですが、イエスのことばから考えると、彼らは阿漕な商売をしていたと思われます。神殿を教会に見立てるとき、不正を働いている教会はないでしょう。しかし、教会がいつの間にか福音を宣べ伝え、キリストの弟子を育成することをメインとする務めから外れてしまい、この世にあって仲良しサークルや地域の社交場になっているとしたら、「教会は祈りの家となっているのか、強盗の巣になっているではないか」とイエス様から叱られてしまうのではないのでしょうか。

しかし一番悲しく涙が出るのは、自分自身が惨めな者である、罪にまみれたものであることを知った時です。このような時こそ、罪深いをものをお救いになるために、主イエスが来てくださったことを心に留めるのです。都を見て泣いたイエスが、あなたのために泣いてくださり、救いの御業のために、ご自身をささげられたのです。滅びることのない新しい神の都の訪れを目指して、受難週の日一日を大切に過ごしてまいりましょう。

引用聖句

ヨハネ 11:35 イエスは涙を流された。

ヘブル 5:7 キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。

ルカ 23:46 イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

マタイ 27:46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

イザヤ 53:3 彼はさげすまれ、人々からのけ者にされ、悲しみの人で病を知っていた。人が顔をそむけるほどさげすまれ、私たちも彼を尊ばなかった。

ルカ 21:5-6 宮がすばらしい石や奉納物で飾ってあると話していた人々があつた。するとイエスはこう言われた。6 「あなたがたのしているこれらの物について言えば、石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。」

マタイ 24:1-2 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の建物をさし示した。2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべての物に目をみはっているのでしょうか。まことに、あなたがたに告げます。ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」

マルコ 11:15-17 それから、彼らはエルサレムに着いた。イエスは宮に入り、宮の中で売り買いしている人々を追い出し始め、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒し、16 また宮を通り抜けて器具を運ぶことをだれにもお許しにならなかった。17 そして、彼らに教えて言われた。「『わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれる』と書いてあるではありませんか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしたのです。」

イザヤ 56:7 わたしは彼らを、わたしの聖なる山に連れて行き、わたしの祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のいけにえやその他のいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれるからだ。

エレミヤ 7:11 わたしの名がつけられているこの家は、あなたがたの目には強盗の巣と見えたのか。そうだ。わたしにも、そう見えていた。——【主】の御告げ——

ローマ 3:20 なぜなら、律法を行うことによって、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。

ローマ 7:24 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

ローマ 7:25 私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。

ヘブル 13:14 私たちは、この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都を求めているのです。